

2017 サポーターミーティング議事録

■目的

経営ビジョンの説明およびより良いクラブづくりに向けた意見交換

■開催日時

平成 29 年 2 月 18 日（土）18：30～20：00

■会場

あざれあ（静岡市駿河区馬淵）

■清水エスパルス出席者

代表取締役社長 左伴 繁雄

常務取締役 兼 地域事業本部長 片岡 裕喜

取締役 経営戦略室長 大庭 千明

大営業本部長 兼 運営事業部長 森田 芳弘

サッカー事業本部長 伊達 倫央

サッカー事業本部 強化部長 内藤 直樹

サッカー事業本部 育成部長 山下 芳紀

大営業本部 物販事業部長 野崎 達也

大営業本部 大営業部長 杉田 壮

経営戦略室 経営戦略グループリーダー 兼 施設管理部長 藺田 稔

総務室長 佐藤 繁典

大営業本部 運営事業部 リーダー 村越 剛

■サポーター参加者 63 名

《挨拶省略》

左伴社長：

皆さん、こんばんは。

昨年サポーターミーティングを実施した際に『1年でJ1へ復帰する』とお約束いたしました。昨シーズン後半戦9連勝で終えましたが、ひとつでも落とせない状況でありました。皆さまのご声援が私達を後押ししてくれたからだと思います。

小林監督含め、スタッフ、選手がチームを作ってくれました。サッカーは選手がやりますが、財力をしっかり作ることが大切でした。J2に落ちて収入が、約3億5千万円マイナスになるところでした。営業がいくら頑張ってもJ1クラスの選手を保有するための財源は取れなかったと思います。昨年限りということで、大株主である鈴与グループ様に追加で4億円のご支援を賜りました。鈴与さんにとってみれば、通常協賛の倍以上のご支援であり、その他のスポンサー様も1年限りということでむしろ増額してくれた会社もありました。そういった財界のご支援がなければ、皆様に公約させて戴いた「主力選手を残し、サッカーの型を作る」ことは出来なかったと思います。減収の中、主力を放出してJ2で戦うという負のスパイラルに陥る瀬戸際にいたことは間違いなく、清水・静岡は法人が強力なバックアップをしてくれたということもご認識戴ければと思います。

選手やコーチングスタッフは、一試合一試合、執念を持てるようになりました。最後まで諦めない姿勢ができていた。勝ちきるためには最後まで諦めないことや、ワンプレーに拘る気迫を持つことで、9連勝に繋がりました。現在は、激しい練習を通じて、最後まで諦めない姿勢、メンタリティで皆が良い方向へ向かっています。この最後まで諦めない執念や、ワンプレーにかける気迫もまた、J1で勝つために必要なことなのではないかと思っています。本日は、図を用意しましたが、内容は新体制発表で話したことと同じですのでわかっている人が多いとは思いますが、中期ビジョンなどの話もしたいと思っています。

(サッカーなどの戦闘意欲の部分を中心に、トップチームはシームレスに近いようなサッカーをしようということで、戦術や技術などについても新体制発表で話した。)

【トップ短期指針】

攻守の切り替えのスピードを速くする。小林監督が言ってきたことを選手が、J1で戦っていくための選手を補強で揃えてきました。

トレーナーも中堅のキャリアを持ったトレーナーを採用しました。アスレチックトレーナーも採用。昨年は故障がとても多く、長期離脱が多かったこともありますが、この体制は元々強化したい陣容でありました。

フィジカルコンディションについて効果測定 GPS を使ってデータを取っています。1試合で12km必ず走れる体になっているとか、時速25km以上で、45分で300回ダッシュができたか、チーム戦術への落とし込みができるツールも採用しました。選手の体の状態を前もって把握できるようになってきております。こうした投資は、J1に戻れたことによる増収を含め、色々な意味で、予算を多く付けられるようになったことで実現しました。1チーム30人位の方が選手への目利きが行き届き、動きが取りやすく、現在故障者が出ているため、若干足りないくらいになっていますが、この位でやっていこうと考えております。

【育成中期指針】

特に育成のところに力を入れたいと思っています。しかし、お金のかかるところでもありま

す。最終的には、生え抜きということもありますが、自分たちで育てた選手を作るために力を注いでいきたいと考えています。今日の試合（非公開：湘南戦）にも、育成の選手が4、5名出ていましたが、こういう経験がトップ向きの強い選手を育てます。さらに専用グラウンドやクラブハウスなどインフラがとても良く整っています。きちんとして育成をすれば結果を出せるインフラを持っています。また、親御さんの理解がとても高い。親御さん自身がサッカー経験をしていたり、サッカーに親しみを持ってくれているご家庭が多い。こうした強みを生かしていきたいと思っています。

練習後30分以内食事が取れるかどうかで変わってきます。そのために、親御さんのお迎えが遅くなったりしますが、食育の方針についても、理解がありますので拡大していきます。育成にお金を掛ければ、効率的に強くなれます。北川選手や、犬飼選手は、1,000~1,200万円程度の投資で、トップに上がってきます。三浦弦太選手の場合、G大阪がその7~8倍の違約金を払って、選手獲得をしています。お金があるクラブは育成をしないで高いお金を払って、選手を獲得することができるが、このクラブにそんなことをさせてはいけないと考えています。生え抜きの選手を、自前の予算で、トップにしっかりと昇格させます。

エスパルスは、浦和のように60億も56億もお金を稼げるクラブにはまだなっていません。それでも今年、やっと36億という球団過去最高の予算でJ1では9位くらいの年商規模までは来ています。かつては、年商28億~30億で、強化費も10億程度、一つ間違えると、J2の上位チームと同じ、2011年以降5年間もその規模で闘って来ています。大きなお金を動かしながら、有望な選手を育てたり、獲得することができませんでした。

今年の予算で育成は、20%増に予算アップし、金額にして4,000万円規模ですが、コーチを増やしたり、チームを増やしたり、海外遠征を増やしたり、食事提供も増やして、身体を大きくしたりという取り組みをしています。ジュニアユースの岩下監督のところは、既に食育をずっと続けてきました。選手達は一回りも二回りも成長し、アクティブなサッカーができるようになった。

チームとしてジュニアユースで3冠を取るとか、ユースで準優勝するのも大事ですが、「この選手は今すぐトップで使える選手です。使ってください！」そういう選手を中長期的に育てていくことが大事です。それは結果として地元の選手の稼働率が上がっていくと思えますので、ここにはチカラを注いでいきたいと思えます。

そこに力を入れていく象徴としてですが、今回、強化部長兼務であった伊達を強化部長の兼任を解き、内藤を専任とし、伊達を本来のサッカー事業本部長としています。彼は元々育成が長かったので、どこにどういうチカラを掛ければ良いかが、過去来、ずっと見てきて知っています。トップ向きの個としての育成をし、山下育成部長と一緒にやってもらい、時間を割いてもらいます。トップに上がれそうな選手を輩出することが中長期な指針であります。

【チームを支えるフロントについて】

J1に戻る過程の中で勝負としての執念や気迫を身に付けるようになって、ある程度、チー

ム力は付いてきました。フロントも、「稼ぐ」部分と、「コストを切る」部分に目標を持ち、やり切るチカラがついてきました。チームを支えていくために、フロントの質が悪いと、2年連続赤字となり、3期連続赤字に、リーチが掛かってしまう状況でしたが、ここ2年でフロントの稼ぐ部分と、コストを下げる部分の自力が付いてきたと判断しております。昨年度は、フロントも最後まで頑張り、決算間際の最終月で黒字に転換しました。これで2期連続赤字はなくなりましたので、今期は思い切った予算を作ることが出来ました。

今年は過去最高の売上を出し、強化と育成を支えようと考えています。

今自分たちがどの辺にいるかという、いかにチームを強くするため、隣の芝が何色に見えるかをはっきりさせ、自分たちがどの辺を目指すべきかを考えていかななくてはなりません。年商で言うと、エスパルスは、J1クラブの中でも1桁順位の予算規模を付けました。2010～2014年で、鳥栖とか新潟は25～28億円、鈴与さんのご支援がなければ、エスパルスは20～25億円の年商程度でした。強化費が10億円前後の時代です。Jリーグでベスト3や、カップ戦をものにするチームになるには、年商40億のバーがあります。強化費は、18～20億円使っています。エスパルスは、今年過去最高の売上36億円という予算を立て、強化費は、14億円という数字を付けました。J1の中では、真ん中より若干後ろの予算となります。2015年ベースでFC東京とか川崎あたりと並ぶところまではもってきました。以前は、新潟、鳥栖、仙台と同じようなところでした。

2011年頃から年商が3億円落ちています。そして強化費を落としています。大量離脱の年と重なります。J2に落ちた年の、2015年から、2億8千万のグッズを買ってもらっていましたが、2016年のJ2で闘った昨シーズンは、3億1千8百万円もの売上になりました。物販や広告収入は、J1クラブの真ん中あたりに位置していますが、このクラブの特徴は、スポンサー収入の金額が大都市並みに、数字が取れるところです。経営者層が野球やゴルフでなく、サッカーを応援してくれることに、特徴があります。スポンサー収入の売上の3割位を取っているクラブはなかなかありませんが、これは、清水エスパルスの特徴だと思います。広告収入の領域を伸ばしていくことで、より大きな財源をもってチームを支えられる可能性はまだあると思っています。3か年計画では、年商40億円、強化費18億円を掲げていますが、そうなれば十分トップ3に入るだけのチカラは備わります。今季はその可能性が実現するか否かが問われる1年ということを経営マンも含め、全職員が、J1でトップ3に入れる財力を確保できるかどうかを問う1年にしようと思います。昨季最終の時点で黒字にすることができましたので、2期連続の赤字にはなりません。ただし、それは鈴与さんに通常協賛の倍以上の追加支援の上に成り立った黒字でした。そうした自分達で稼がない支援に頼るのも、J2に落ちた昨シーズンだけに、今年は自力の営業活動で、予算達成をして自分達の稼いだお金で、チームを食わずぞ！という意気込みで、今年一年もっと上の順位で、闘えるだけの勝負の一年にしていきたいと思っています。

チームは1桁順位、フロントは年商1桁順位という風に思っています。

新体制発表で、小林監督は、3人補強したいと話していましたが、今時点で、2人獲得して

きています。あと1人獲得していきたいと思っています。

当初小林監督が要望したポジションと資格要件を持った選手の補強は終わっています。予算がまだ残っていますので、シーズン中の補強はお金がなくてやらないとは言いません。但し、人の入れ替えは、2割を超えてはいけないと思っています。J2のとあるクラブでは、それを大幅に超え、良いものも同時に失ってしまいました。エスパルスの昨年後半大分固まったサッカーや、チームの良い雰囲気がありましたので、やみくもに補強をするということは、お金とは別に、失うものがある可能性がありますので、そこは注意をしています。

最後になりますが、今年は、チームが一桁順位を目指すということを、小林監督、伊達本部長含めて決定しました。一ケタ順位とは、1位から9位までを言いますが、年明けスポンサー様を回ると、一桁順位ということは、優勝も有り得るよね？と話される経営者もおりました。昨年のポジションで、J1で闘う上では、5ポジションが厳しいよね、という部分があり、選手補強をしました。それで、優勝を狙います、2位を狙います、ACL圏内を目指しますという、目標を勘違いすることになると思います。1試合1試合遣り切るということに重きを置き、結果は後からついてくるという風に考えています。

皆様方には、日頃数字は見えないかもしれませんが、J1で恥じない数字、親のすねをかじらない、フロントでありチームとなっていけるよう、ご支援を頂ければと思います。

《質疑応答》

Sさん

育成の部分でインフラが他のクラブより整っていると話がありましたが、専用の練習場やクラブハウスは他のクラブより整っているかと思います。全寮制は今後検討していくのでしょうか？

コーチを増やすというお話があったが、昨年、テクニカルダイレクターを設けるというお話がありました。昨年エスパルスは、そのポジションの加入はなかったが、今現在どのように進んでいるのか？

左伴社長

全寮制に関しては、優先順位としては高くありません。今季運営費を、1億4千万円から1億8千万円に予算を増やしましたが、インフラ部分で、人が足りなかったり、個々の能力をアップさせる方を優先し、今ある寮を全寮制にすることは、親御さんの理解も必要で、不可能ではありませんが、難しいなと思っています。今後やっていくか否かは、伊達本部長とも話をしましたが、この件に関しては、もう少し時間を頂ければと思っています。

テクニカルダイレクターについては、昨年の説明責任という話になると思いますが、昨今の頃は、横串でキチンと練習の質やコーチの力量を観るうえで、テクニカルダイレクターが必要だと思っていました。ジュニアユースを中心に、自分達でいろいろな取組みをしてきた

ことが実を結んできており、今のメンバーを知った者が統括する方が、効率的に回るため、伊達をサッカー事業本部の本来のポジションに戻しました。内藤が強化専任となり、伊達が、今後横断的に見るができるようになったので、伊達にテクニカルダイレクターとしての役割も担ってもらい、それでもテクニカルダイレクターが必要であれば伊達と相談して決めようと思っています。

S さん

2016 新体制発表の時に、テクニカルダイレクターの話があったのは、県内外問わずスカウトを行うことに重きを置いたということでしたが？

伊達本部長

J2 という限られた予算の中で、やりくりが必要でした。三島などでも、ジュニアチームの新設や、昨年 J2 でも育成部の予算は増やしてもらっています。育成のスタッフ、三島、清水のジュニアスタッフの活動費を優先させてもらいました。また今季は、そういう人がいれば採用も検討させていただきたいですが、今季増額の 4 千万円の中で、もう 1 学年三島と静岡を増やし、さらに海外遠征なども（3月にユースが、ドイツやオランダに遠征）増やしたい。食事も今年、週 2 回に増やそうと考えています。今年から、私がアカデミーダイレクターを担いますので、育成におけるプランニングを考えていきます。

K さん

毎回、この会に出させて貰っていますが、昨年この場に監督や選手スタッフを同席してもらった方が良いのでは？と言っておられました。今日この場に居ませんが、どうなっているかお聞きかせ下さい。もう 1 つは、何回もお話に上がっていますが、8 月、浦和レッズ戦が、エコパ開催になっていますが、なぜエコパでやるのか？一昨年は、2 万人を割っていたと思います。5 万入るスタジアムに 2 万よりも、日本平のホームで 2 万人集める方が良いと思います。モチベーション的にも、サポーター的にも良いのではないかと思います。

運営村越

エコパ開催は、元々 5 万人収容のスタジアムということで数多くのお客様に来場いただくことが可能です。一昨年（2015 シーズン）は 2 万人割ってしまった（実数 19,232 人）が、3 万 8 千人を超える（実数 38,909 人）お客様にご来場いただいた年もあり、エスパルスのファンの方が、中西部にもいます。集客という面においても、エコパ開催を実施させていただきたいと思います。もう一つ、セキュリティ面があります。サポーター同士の揉め事もありました。運営関係者とサポーターとの揉め事もありました。セキュリティの観点も重要な検討事項となります。安全が担保されて初めて試合運営が行われなくてはなりません。浦和レ

ツズのサポーターは、大半がお車で来場されます。その中で、現在、オフィシャルで場外臨時駐車場の運営を行ってきましたが、5年前から、駐車場が1/3、1/4の数に減っております。その他に日本平周辺地区の近隣のクレームが発生した事例もあります。それらを踏まえて、エコパ開催を選択しました。将来的には、日本平での検討も有り得るかと思います。

左伴社長

小林監督と1年付き合ってみて、開幕直前に、こういう場に出て、お話することは適切ではないと、私の判断で欠席頂きました。皆さんが想像する小林監督と、私がこの1年見てきた小林伸二という男は、少し違って見えています。小林監督は、慎重で時に良い意味でナーバスなところがあります。そういうところを、ここにいる伊達や内藤、海外で活動している原が良く知っています。少しのことでも驚いたり、考え込んだり、仕事を進めていく上で、非常に細事にまで気を配る男です。必勝祈願の日も彼が来て初めて、暦を良く観察して決めたりする男です。サッカーを語らせれば、いくらでも話す男でもあります。タイミングを誤ると、非常に繊細な部分もあるので、今回は見送りました。今日は、湘南と練習試合をやりましたので、今頃はビデオまみれになって、明日からの一週間の一コマコマをどうやって練習していくのかということを考えている真っ最中だと思います。昨年「検討します。」と答えた時と、今と状況が異なっており、彼がJ1という大きなステージを目前に、非常に慎重になり、集中していることを考え今回は、控えました。

Tさん

西ゲート再入場口で、一部の若い応援団の人がチケット半券も持たずに、突破することが何度もあります。昨年非常に困って、応援団の〇〇氏に立っていました。立っているうちは良いのですが、いなくなると、すぐ繰り返します。酷い人になると混んでいる時を狙って走り込んできます。こういうこと多く、一般のお客様から、「あの人が良いなら俺たちもいいだろ」と言われてしまったのですね。「駄目です」、「では、ちゃんとチェックしろよ」と一生懸命にやっているのにお客様にも怒られます。嫌な思いもします。ここを早急に何とかしてほしいです。男性や僕のとときはまだ良いのですが、女性陣が立っている時には強引に通ったり、他にも、「関係者にちゃんと許可を取っている」と言う人とか、チケットを「見せたくない」と言う人もいます。一部の人達のために、嫌な思いをするのを改善してもらいたいです。何年も言っていてどうやって改善するのか、教えてもらいたいです。

運営担当 村越

Tさんからの報告書もいつもちゃんと拝見させていただいております。どの方かというのをTさんご自身ある程度認識されているのではないかと思います。運営体制に関して、女性スタッフでなくて、男性スタッフを置く形で、対応させて頂こうと考えております。当然、不

正行為に当たる事象となりますので、厳しく取扱いたいと思います。再入場口のわかりにくさというものもあるので、場外から場内、場内から場外とサイン（案内）を検討し、改善してまいります。

Tさん

再入場券について、毎試合色を変える等してほしいです。ボランティアはみ皆、西サイドゲートが嫌いです。警備員を配置するなり、警察官も配置できるならしてほしいです。ボランティアスタッフも皆「やりたくないね」と言っています。早急に何とかしてほしいです。

運営村越

少しでも改善されるように努めてまいります。

K2さん

スタジアム問題で、昨年 J1 ライセンスが発行されましたが、クリアしていないことで制裁措置として具体的に何を課せられたか、教えて下さい。また対策計画を昨年度末までに出すと聞いていますが、どのような回答をされたか、教えて下さい。

そろそろ新スタジアム建設に関してもっと具体的に動きたいと思います。(株)エスパルス、サポーター、静岡市と三位一体となって動き始めなくてはならない時期だと思っています。東静岡等、候補地が出ていますが、東静岡は敷地が狭すぎると思います。スタジアム自体は建つかと思いますが、残った敷地面積がなく、最近民間団体から、清水駅東口に建てる提案が静岡市になされたと伺っています。エスパルスで承知しているのかをお聞きしたい。もう、清水駅の東口しか候補がないと思いますので、静岡市もエスパルスもそこに絞って、サポーターの寄付なり、企業寄付の協力をお願いするなり、具体的に動き出した方がいいと思いますので、それらをお聞きしたい。

森田本部長

毎年、この席でこのご質問を戴いておりますが、正直お話しできることは草々ございません。まずご指摘いただきましたクラブライセンス施設基準につきまして、トイレの数、屋根について制裁の対象となっております。アイスタは洋式トイレが 100 台ないといけないのですが、現状で行くと 46 台、また、小便器は 160 に対し、143 台あります。屋根もスタンドが 1/3 覆われていないといけなく、現状、26%しかありません。しかし、現状、アイスタで増設することは極めて厳しいです。今後も、しっかりと静岡市と向き合って参りますが、静岡市としましては、静岡市スポーツ推進計画『サッカースタジアム整備事業』として、平成 30 年度までに整備方針を決定することとしています。

また、新スタジアム問題は、官と民とクラブと一体とならないと上手くいきません。『いつ？

どこに?だれが?』… エスパルス単体で、建設することは不可能であり、官と民と協力することが大事です。その中で、一番の問題は、『資金は誰が』出すのかです。ガンバ大阪みたいに、募金で集めるクラブもあります。そういう中で、官民との方向性も確認できた時、爆発力で世論を巻き込んで、勢いよく推進しないと、建つものも建たなくなってしまう。引き続き、クラブとして『チームづくり』、『ファンづくり』、『スタジアムづくり』は、クラブの最重要課題としてブレずに活動して参りたいと思いますので、是非、それが表に出てきた時は、署名、募金等をお願いしたいことが多々あるかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

A さん

スカウトの関係で、最近高校など有名な選手が入らないのですが、どうなっているのか教えて下さい。有名選手があまりにも来ないというのは何か問題があるのではないのでしょうか。強化の面で、外国籍選手ですが、ウタカ選手は、清水でやりたいのか、やりたくないのか? 教えて下さい。

訴訟の問題で、ゴトビ監督の訴訟問題はどうなっているのか?

訴訟が上がってから、何も情報がないので、清水にとって良い方向に向かっているのか、悪い方向に向かっているのか、教えて下さい。

物販の件で、昨年、夏期限定ユニフォームが出ましたが、新聞でサポーターにかなり挑発的なことを言っておきながら、いざスタジアムに買いに行ってみると買えない人が大勢いました。責任者が謝っていたのは覚えているのですが、前年もユニフォームを買う時にトラブルになっていたのを覚えており、どうやって今後変えていくのか、今年もやると思いますが、今までと同じようにならないように、欲しい人が買えるように考えてもらいたいと思ひます。実際に現場に行った人が買えなくて、取り置きした人が買えるのはおかしいと思ひます。その件について教えて下さい。

左伴社長

スカウトの話や物販の話は、それぞれの担当からお話させていただきますが、ゴトビさんの訴訟部分については、今どうなっているかということですが、エスパルスにとって、悪い方向には進んでいません。

(当日一部詳細に関する説明も致しましたが、現在係争中ですので議事録からは割愛させていただきます。)

伊達本部長

ウタカ選手の件ですが、先方の代理人もいますので、現時点で、ここではお話しできません。私が一昨年、強化担当になったとき、ここに居る選手、外に出ている選手が 40 名もいまし

た。そこを何とかしなくてはいけないというところもあり、去年の入団が1人、今年の入団が2人と少なくなっています。

内藤部長

昨年までチームスカウトとして勤めてきました。若い選手が加入しても使ってもらえない、余剰人員が増えてしまうばかりなので、コントロールしなくてはいけないことが一つ。既存の選手で、若い選手が活躍するようになり、主軸の選手として活躍するようになってきます。それを今の高校生、大学生が見て、このチームは若い選手でもチャンスがあるんだと思うようになってくれます。

今、選手が30名いますけれど、かなりスリムになって若い選手も出て、怪我人が出れば次の選手が出てとなくなっていますので、そこからまた次の選手を補強していくことになります。既存の選手をしっかりと育てて、強いチームを作っていく。2011年から強化費が減っていましたが、負のローテーションを払しょくして、良い流れを作っていきたいと思います。

森田本部長

昨年の3rdユニフォームの件は、この場を借りて、深くお詫び申し上げます。クラブとして、初めての3rdユニフォームのチャレンジ事業ということで、議論の結果、ほぼあの数で行けるだろう。と思っておりましたが、我々の想定以上のご購入者がいらしたため、あの様な事態となってしまいました。今後も、どのような販売方法がベストなのか検討していかなければならないと認識しております。また、一方、株式会社ですので、在庫リスクとのバランスもしっかり考えていかないとはいけません。また、昨年この場で、1月のファン感での長打のお申込みの列でお詫びさせていただきましたけれども、その経験則を活かせずあのような炎天下の中、皆さまをお待たせしてしまったことは、誠に申し訳なかったと思います。今後は、クラブの経験則として刻み、しっかり準備して参りたいと思います。

Tさん

駐車場の件で、シーズンチケットだけのお客様に限るとありました。年に3回位来る人もいます。お子さんが居て、帰りがかなり混んでしまっていて困ってしまい、行けない、という人が結構います。代替手段を早く発表してもらいたいです。今の時点でどのように考えているのか、教えて下さい。

村越運営

今いろんなところと代替案のご相談をしております。市立清水病院さんの職員駐車場など色々なところを当らせていただいています。スタジアム周辺は工場が非常に多く、万が一火器の使用などで、引火したりなど重大事故が起こる可能性があります、専用駐車場として使用し

ているところ以外お貸出し頂けないのが、現状であります。代替案があれば今すぐにでもご用意したい。見つからない中で、最近パーク&ライドということをよく耳にするとおもいますが、シーズンシートのお客様用の、場外臨時駐車場が2箇所しかなくなってしまいました。清水駅周辺、ドリームプラザ（日の出地区）周辺で、合計2,500台の収容があります。パーク&ライドをご利用いただき快適にご利用いただきたいと考えています。

しかし、この場合もシャトルバスの乗車人員が増えることにより、快適性が伴わなくなってしまうのではないかと、その他、お車でスタジアムへの送迎のお車で、スタジアム前の道路（県道198号）も、近隣住人の皆さまにも多大なご迷惑をお掛けしており、指導を受けていることも現状としてございます。

代替案があれば、都度、都度ご案内させていただきたいと思っております。色々な質問、ご指摘事項があるかと思っておりますが、いつでも扉は開いておりますので、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

エスパルス専務理事 納谷聖二様

今日は本当にこのような会を開催頂きありがとうございます。昨日夜スポーツパラダイスで、澤登さんと中村俊輔さんの対談を見ていましたが、その中で、中村選手が、「一日も早くジュビロの色に染まりたい」と言っていました。今年、エスパルスに入った選手には、彼よりもっと早くエスパルスのオレンジ色に染まってもらいたいです。ただ染まるだけでなく、活躍してもらいたい。

今日の話も、毎年言っていたいておりますが、僕の一つの希望として、来年実施する時は、社長の話はもちろん聞きたいですし、非常に安定してしっかりした経営をされていると思えます。むしろ、それ以外の強化の部門で、今年のチーム力、新しく入った選手の話を知りたいと思えます。経営はプロに任せれば良いですが、サッカーの試合は、選手に任せなくてはなりません。その選手に、僕らの気持ちが届くように開幕前のこういう機会に、率直な話を聞いて、我々も理解して応援していきたいです。そう思うのですが、どうでしょう。

<参加者>拍手

どうもありがとうございます。以上です。

以上にて、閉会

左伴社長

最後に言い忘れました！

『ホーム2F自由席』が未だ、完売になりません！

ぜひ、サポーターの皆さんでスタジアムをオレンジ色にさせていただきますようお願いいたします！